

# 全ては土作りから～健康的な牛作りで人も元気に 村上牧場（清水町）



有機酪農に取り組む村上御夫妻

## 【組織等の概要】

- 代表：村上 博昭（平成19年から）
- 耕地面積：70ha 採草地60ha  
放牧地10ha（10区画）  
放牧実施の期間：5～10月  
※デントコーンの作付けなし
- 飼養頭数（令和4年6月現在）  
ホルスタイン種 75頭（うち搾乳牛35頭）
- 1頭当たり平均乳量：6,800kg
- 生乳出荷先：（有）あすなろファーム

## ◇【取組の経緯と概要】

- ◆ 酪農経営の現状を学ぶため、平成8年、デンマークでの現地研修に参加。
- ◆ 欧州の酪農現場で得られた知見を実践するため、土壌研究組合の土壌診断を活用。草地の特徴を把握した上で、環境負荷を軽減した土作りを開始。
- ◆ 化学肥料の使用量を最小限にとどめながら、農薬を使用しない牧草作りを実現。慣行栽培より収穫量が下回るものの、高品質化を実現。
- ◆ 牛の疾病発生が減少し、営農全般への目配りが可能になった。牛の健康状態の安定が、酪農家自身の健康に影響することを実感。
- ◆ 平成30年から31年にかけて有機JAS認証等を取得。

## 【取り組む際に生じた課題と対応方法】

先代の村上勇治氏が始めた農業低減による土作りを継承。独学で試行錯誤を重ねるが、粗飼料の品質向上や乳牛の健康状態の改善等につながらず、成果が出なかった。

- ⇒ 酪農先進地の現地研修で技術を習得（1年間）
  - ✓ 牛の飼養技術、健康管理、アニマルウェルフェア
  - ✓ 環境負荷を軽減した草地作り
  - ✓ 生活と仕事の調和を実践する労働時間管理
- ⇒ 土壌研究組合の土壌診断を活用
  - ✓ ほ場状態を土壌分析で確認
  - ✓ 土作りに有効な有機資材を使用開始

## 【活用した支援施策】

- 環境負荷軽減型酪農経営支援事業（エコ酪事業）

## 【取組の成果】

- （一社）アニマルウェルフェア畜産協会からアニマルウェルフェア農場認証状の交付を受ける。  
（平成30年）
- 有機JAS認証（有機飼料）を取得（平成31年1月）
- JGAP認証（乳用牛・生乳）を取得（平成31年2月）



村上牧場の生乳のみを使用した牛乳

## 【今後の展望】

- 土作りへの思い  
理想とする土の完成を目指して今後も草地改良を重ね、栄養価の高い粗飼料生産を実現する。
- 有機牛乳の提供に向けて  
牛乳の有機JAS認証取得を目指すとともに、消費者に選ばれる価格と品質管理の実現に努める。

「有限会社あすなろファーム」とのつながり  
同社は、村上牧場の先代が平成2年に創業。乳製品の加工・販売を手がけている。現在、博昭代表の弟、悦啓氏が社長を務める。  
同社は、令和3年12月、第11回コープさっぽろ農業賞で北海道知事大賞（最高賞）を受賞。

